

与論島におけるオカガニ類 2 種の記録

藤田喜久¹・水山 克²

¹ 〒 903-8602 沖縄県那覇市首里当蔵町 1-4 沖縄県立芸術大学

² 〒 905-8585 沖縄県名護市字為又 1220-1 名城大学

Abstract

Two species of land crabs are reported from Yoron Island in the central Ryukyu Islands of Japan: *Cardisoma carnifex* (Herbst, 1796) and *Epigrapsus politus* Heller, 1862. This is the first record of *E. politus* on the island. Brief notes on the habitats of these species are also provided.

はじめに

オカガニ類は、オカガニ科に属する陸棲カニ類で、生活史の初期には海域にて幼生期を過ごすことが知られている(藤田, 2009)。著者らは近年、鹿児島県与論島における陸棲・陸水棲十脚甲殻類相調査を実施しているが、その過程にてオオオカガニ *Cardisoma carnifex* (Herbst 1796) とヤエヤマヒメオカガニ *Epigrapsus politus* Heller, 1862 を確認した。従来、与論島からは、オオオカガニ(別称: ミナミオカガニ, ギダーサオカガニ) *C. carnifex*, オカガニ *Tuerkayana hirtipes* (Dana, 1851), ヘリトリオカガニ *Tuerkayana rotundum* (Quoy & Gaimard, 1824), ムラサキオカガニ *Gecarcoidea landanii* H. Milne Edwards, 1837 の 4 種が記録されていた(Sakai, 1976; 藤田, 2022, 2023; 藤田・水山, 2024)。本報では、ヤエヤマヒメオカガニを標本に基づく与論島初記録として報告すると共に、オオオカガニとヤエヤマヒメオカガニの生息環境についても記述する。

材料と方法

オカガニ類の採集調査は、2024 年 7 月 12-14 日に与論島北東部の皆田付近の海岸と、2024 年

11 月 15-17 日に与論島東部の大金久海岸に流入する水路河口部に位置する湿地にて実施し、全て徒手にて採集した。採集した個体は宿にて冷凍して研究室に持ち帰り、解凍後に写真撮影を行った。保存標本は、デジタルノギスを用いて最大甲長および甲幅を計測し、雌雄を判別した。本研究で得られた標本は、全て琉球大学博物館(風樹館, RUMF: Ryukyu University Museum, Fujukan)に収蔵した。

結果と考察

Cardisoma carnifex (Herbst, 1796)

オオオカガニ

(図 1A, 2)

調査標本 1 雌 (RUMF-ZC-6170, 甲長 48.0 mm, 甲幅 56.6 mm), 2024 年 11 月 16 日, クジリの湿地部(与論島の大金久海岸流入水路河口部), 藤田喜久採集。

備考 今回得られた標本(図 1A)は、(1) 甲の前側縁が強く張り出し、稜線は不明確で丸みを帯びること、(2) 頬部の毛束が八の字状に生じること、(3) 左右の鉗脚の大きさが著しく異なることから、藤田(2009)で示されたオオオカガニ *Cardisoma carnifex* (Herbst, 1796) の特徴によく一致していた。なお、本種の和名については「ミナミオカガニ」が用いられることが多いが(例えば Sakai, 1976)、本研究では平田ほか(1973)に従った。

今回、本種が確認された場所は、与論島東部の大金久海岸に流入する水路河口部(クジリ)に

Yoshihisa, F and M. Mizuyama. 2025. Two land crab species (Decapoda: Brachyura: Gecarcinidae) from Yoron Island in the central Ryukyu Islands, Japan. *Nature of Kagoshima* 52: 127-130.

☑ FY: Okinawa Prefectural University of Arts, Shuri-Tounokura 1-4, Naha, Okinawa 903-8602, Japan (e-mail: fujitayo@okigei.ac.jp).

Received: 22 November 2025; published online: 23 November 2025; https://journal.kagoshima-nature.org/archives/NK_052/052-030.pdf

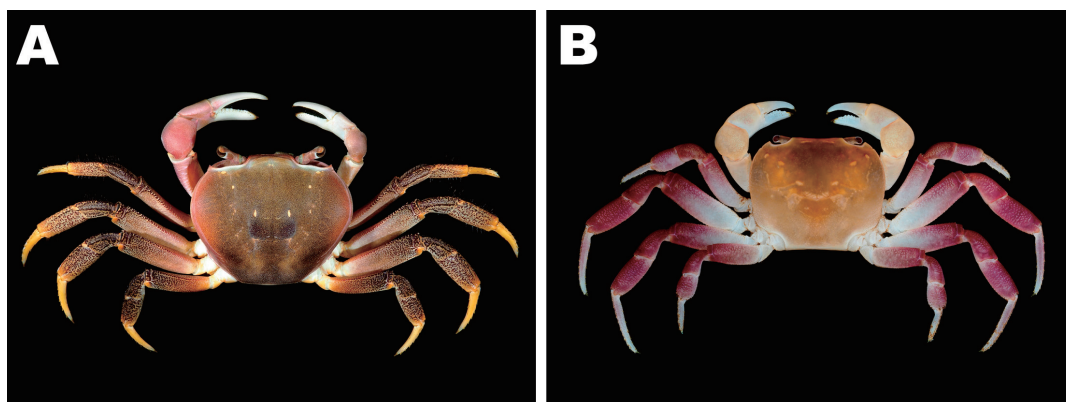


図1. 与論島から採集されたオカガニ類2種. A, オオオカガニ, 全体背面; B, ヤエヤマヒメオカガニ, 全体背面.
Fig. 1. Two land crab species collected from Yoron Island, central Ryukyus, southwestern Japan. A, *Cardisoma carnifex* (Herbst 1796), whole animal, dorsal view; B, *Epigrapsus politus* Heller, 1862, whole animal, dorsal view.

位置する砂泥底質の湿地であり、夜間に徘徊している本種個体が観察された。また、同所には多数の巣穴が存在しており（図2B）、さらに多くの個体が生息しているものと考えられる。ただし、この湿地は非常に狭い面積であり（地理院地図電子国土web上の測量ツールで計測して200 m²未満）、また、隣接する海岸林内では巣穴は観察されなかったことから、本種の生息範囲は極めて狭いことが推察された。オオオカガニは、琉球列島の河口域湿地やマングローブ域に生息する普通種である（藤田，2009）。しかし、与論島は島が石灰岩で構成されているために河川等の陸水環境に乏しく、本種の生息可能な環境は、同島の東部にある大金久海岸に流れ込む水路河口部周辺（クジリ）、同島西部の湧水を起源とし茶花海岸に流れ込む小水路周辺（ウフィンジュ）、同島南部のハキビナ海岸に流れ込む小水路周辺などに限定される。さらに、ウフィンジュとハキビナ海岸に流れ込む小水路はコンクリート護岸化が顕著であり、本種の生息は確認できなかった。また、Sakai (1976) は、本種を与論島から記録しているが、その採集地の詳細は不明である。以上のことから、現状、与論島における本種の生息地はクジリ湿地に限られている可能性が高く、今後の開発等を避けるための保全策を講じる必要がある。なお、同島にて2024年11月8–10日に発生した豪雨災害（山本，2024）では、クジリ湿地でも植生が一掃される環境改変の事例が発生したが（図2C, D）、その直

後（2024年11月16日）においても本種の生息及び複数の巣穴が確認された（図2A）。

Epigrapsus politus Heller, 1862

ヤエヤマヒメオカガニ

（図1B）

調査標本 1雄（RUMF-ZC-6171, 甲長10.0 mm, 甲幅12.5 mm）、2024年7月12日、皆田海岸の飛沫転石帯、藤田喜久・水山 克採集。

備考 今回得られた標本（図1B）は、甲の前側縁の歯が著しく小さいこと、第3顎脚がほぼ正方形となること、歩脚の表面に小棘や剛毛が少ないことから、先行研究におけるヤエヤマヒメオカガニ *Epigrapsus politus* Heller, 1862 の特徴に良く一致していた（Osawa & Fujita, 2005；鈴木ほか，2008；藤田，2009）。

本種は、国内では琉球列島に分布しており、特に沖縄県の島嶼から多数の報告記録がある（鈴木ほか，2008；藤田，2017）。鹿児島県下における本種の記録は奄美大島と徳之島のみであり（鈴木ほか，2008）、本報は与論島における本種の初記録であり、かつ、鹿児島県下における3島目の分布記録となる。本種は、鹿児島県レッドデータブックにて「準絶滅危惧」と評価されている希少種である（鈴木，2016）。また、本種は、海岸の飛沫転石帯に強く依存して生息することが知られているが（Osawa & Fujita, 2005；鈴木ほか，2008；藤

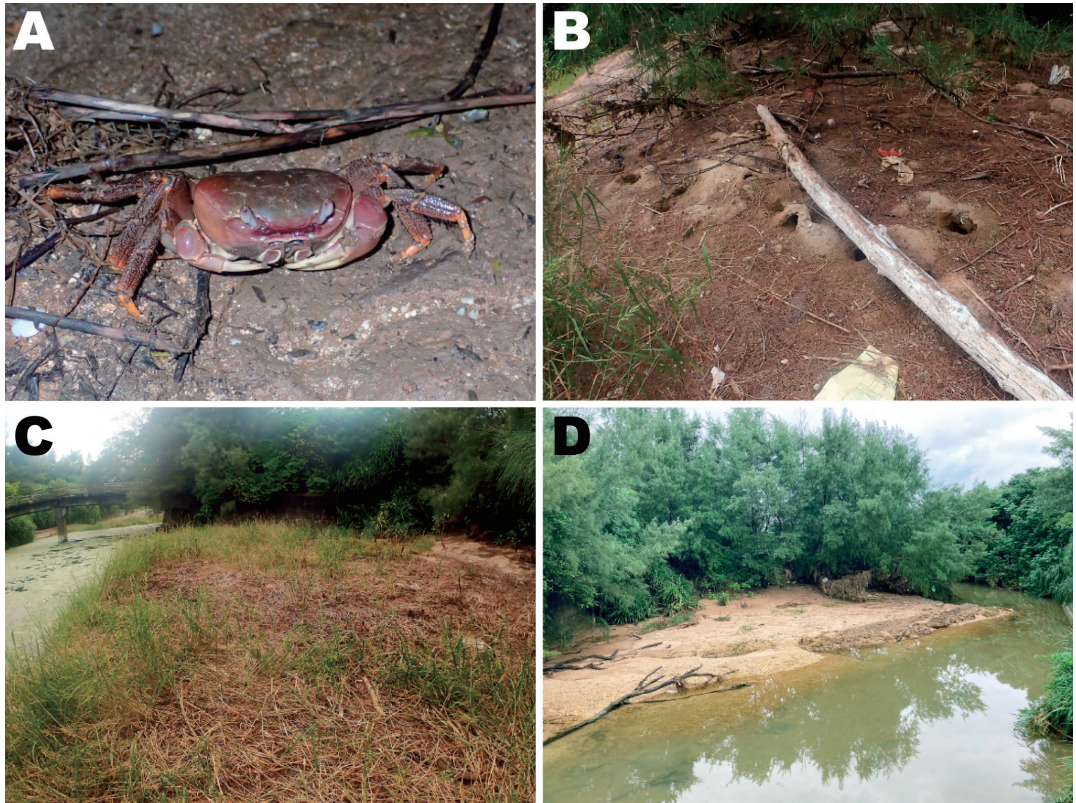


図2. オオオカガニの生息地。A, 生態写真, 2024年11月16日撮影; B, オオオカガニの巣穴, 2024年8月14日撮影; C, 与論島クジリ湿地の様子, 2024年8月14日撮影(画面左にクジリ橋が見える); D, 同, 2024年11月16日撮影(クジリ橋から見た湿地の様子)。

Fig. 2. Habitat of *Cardisoma carnifex* (Herbst 1796). A, *In situ* photograph of *C. carnifex*, photo taken on November 16, 2024; B, borrows of *C. carnifex*, photo taken on August 14, 2024; C, Kujiri Swamp of Yoron Island, photo taken on August 14, 2024 (Kujiri Bridge is visible on the left of the photo); D, same, photo taken on November 16, 2024 (viewing the Kujiri Swamp seen from Kujiri Bridge).

田, 2017), 本研究においても与論島の4箇所の海岸(皆田海岸, 中金久海岸, 赤崎海岸, 前浜海岸)の西部に位置するウジジ;ただし, 保存標本は皆田海岸の1個体のみ)の飛沫転石帯から確認された。現在のところ, 与論島の海岸環境は良好に保たれているが(藤田, 2023), 飛沫転石帯環境は海岸開発の影響を受けやすいことが指摘されていることから(藤田, 2018), 今後も注視する必要がある。

謝 辞

本研究を実施するにあたり, 与論郷土研究会の麓 才良氏には, 調査器材の管理や調査地名の確認等に際し多大なるご協力をいただいた。また, 本研究の実施には, 公益財団法人自然保護助成基金プロ・ナトゥーラ・ファンド助成による支援を

受けた。以上の関係者および関係機関に感謝する。

引用文献

- 藤田喜久. 2009. 宮古島のオカガニ類. 宮古島市総合博物館 紀要, 13: 53-70.
- 藤田喜久. 2017. 先島諸島における希少オカガニ類4種の分布記録. Fauna Ryukyuna, 36: 19-26.
- 藤田喜久. 2018. エビ・カニ類の生息場所から見た沖縄の海の自然環境. In: 芸術論の現在 沖縄からの発信 沖縄県立芸術大学開学30周年記念論集, p. 85-103.
- 藤田喜久. 2022. 与論島初記録のヘトリオカガニ. Nature of Kagoshima, 49: 49-51.
- 藤田喜久. 2023. 与論島初記録のムラサキオカガニ. Nature of Kagoshima, 50: 21-22.
- 平田義浩・仲宗根幸男・諸喜田茂充. 1973. 沖縄の貝・カニ・エビ. 風土記社, 144 pp.
- Osawa, M. and Y. Fujita. 2005. *Epigrapsus politus* Heller, 1862 (Crustacea: Decapoda: Brachyura: Gecarcinidae) from Okinawa Island, the Ryukyu Islands, with note on its habitat. Biological Magazine, Okinawa, 43: 59-63.

- Sakai, T. 1976. Crabs of Japan and the Adjacent Seas. Kodansha, Tokyo [In 3 volumes: (1) English text, (2) Plates volume, (3) Japanese text].
- 鈴木廣志. 2016. ヤエヤマヒメオカガニ. Pp. 342. 鹿児島県環境林務部自然保護課 (編), 改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物 動物編 — 鹿児島県レッドデータブック 2016—. 一般財団法人鹿児島県環境技術協会, 鹿児島市.
- 鈴木廣志・藤田喜久・組坂遵治・永江万作・松岡卓司. 2008. 希少カニ類 3 種の奄美大島における初記録. *CANCER*, 17: 5–7.
- 山本晴彦. 2024. 2024 年 11 月に鹿児島県与論島と沖縄県北部で発生した豪雨災害の特徴. 自然災害研究協議会中国地区部会研究論文集, 11: 5–8.